

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地														
麻生外語観光&製菓専門 門学校		平成3年1月8日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 03-6734-2939														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地														
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-38 (電話) 0948-25-5999														
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士													
文化・教養	文化教養専門課程	海外ビジネス科			平成22年文部科学省 告示第31号	—													
学科の目的	グローバル社会において、必要とされるプレゼンテーションスキルとコミュニケーション能力を備え、様々な業界で使える英語を身に付けた人材の育成を目的とする。																		
認定年月日	平成27年2月17日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技												
	2年 屋間		1885時間	165時間	2050時間	40時間	0時間	0時間											
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
80人		108人	9人	5人	11人	16人													
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テスト等の総合評価														
長期休み	■夏季: 8月7日～9月9日 ■冬季: 12月22日～1月8日 ■春季: 3月15日～4月3日			卒業・進級 条件	ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有														
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 航空、旅行、ホテル、一般企業 等			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)														
	■就職指導内容 希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言 を与える。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実用英語技能 検定試験 2級</td> <td>③</td> <td>44人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>TOEIC (IP) 500点以上</td> <td>③</td> <td>44人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	実用英語技能 検定試験 2級	③	44人	35人	TOEIC (IP) 500点以上	③	44人	27人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数														
	実用英語技能 検定試験 2級	③	44人		35人														
TOEIC (IP) 500点以上	③	44人	27人																
■卒業者数 : 44 人 ■就職希望者数 : 39 人 ■就職者数 : 39 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.6 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																
■その他 ・留学者数: 5人			■自由記述欄																
中途退学 の現状	■中途退学者 6 名 平成29年4月1日時点において、在学者103名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者97名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更による退学、経済的理由による学業継続困難等			■中退率 5.8 %															
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災して進学が困難になった者を対象に、入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																		
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/aftc/subject/business/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携により実践的かつ専門的な職業教育を実施することで人材養成課程の質の保証・向上を基本方針とする。授業科目開設においては、卒業生に対する「お客様アンケート」結果による企業視点を軸とし、航空、運輸業界において必要とされる知識・技能の修得を目指す。実践の機会として設定する観光業界におけるインターンシップでは、職業像と必要適性を明確にし、各自の具体的なキャリアプランを構築するための取り組みとする。また実務を経験し、適切な指導・評価を受けることで学内での学習との相乗効果を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専攻分野における市場動向や地域産業振興の方向性等に関する意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とし、教育課程編成委員会を設置する。尚、委員会では、次に掲げる事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議では、教育課程編成委員会の審議内容を基に、授業科目の改善や新規開設、授業内容や授業方法の改善を検討する。これにより専攻分野で必要とされる知識・技能の修得を可能とする質の高い教育の提供を目指す。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
長 加奈子	福岡大学 准教授	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	②
森山 光	株式会社アルク教育社 福岡支店 支店長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
金 大義	社韓進インターナショナルジャパン福岡空港事業部 事業部長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
能城 めぐみ	ヒルトン福岡シーホーク人事部 次長一人材開発担当	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
和田 菜穂	麻生外語観光&製菓専門学校 副主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
中西 伸二	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
石田 小雪	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
村上 正雄	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
益田 千次	麻生外語観光&製菓専門学校 海外ビジネス科専任教員	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年6月21日 17:00～18:00
 平成29年度 第2回 平成29年10月18日 16:30～17:30
 平成30年度 第1回 平成30年6月20日 17:00～18:00

(開催日時 予定)

平成30年度 第2回 平成30年10月17日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

グローバル社会におけるビジネス、サービス産業に携わる人材像に関する意見として、英語によるコミュニケーション能力に限らず、業界専門知識やスキルの習得が必要とされているとの意見をいただく。そのためにも、グローバル人材育成のためのカリキュラム構成や、インターンシップなどによる就業体験の必要性に関する意見を頂いた。そのため、観光業界での「企業インターンシップ」を導入し、企業連携科目で得た知識の実践の機会と位置づけ、受入れ先企業様からの指導・評価を受けることで学内での学習との相乗効果を図ることとした。また現場において英語の四技能の中でもとりわけリスニング能力が大きく求められる傾向があるとの指摘があり、既存科目である総合英語の中でよりリスニング力を高めることができるようシラバスの変更を行った。今後も社会が求める実践的なカリキュラムとなるよう適宜見直しを行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。

その内容については、将来グローバル社会において即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業と学校による教育委託契約書により、企業が選任した講師による演習を実施する。教育カリキュラムの設定並びに変更にあたっては企業と学校とで事前に協議を行い決定する。評価はレポート課題の提出状況や内容を踏まえた総合評価とするが、評価基準については事前協議の上で設定する。

【授業科目】 マーケティング

【授業開設の目的】

グローバル社会におけるビジネスを理解し、トレンドの把握、顧客ニーズの解明、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスを学ぶことで、国際社会に対応する人材の育成を目指す。

【授業科目】 プロジェクトベースドラーニング

【授業開設の目的】

学習を能動的なものと規定し知識の暗記にみられる受動的なものを脱却するために、自ら課題を発見し解決していく能力を身につける。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
マーケティング	身近な分野の問題や改善点を捉えながら、外国人に接するエアラインやホテルの取り組みを参考に、マーケティング手法やツールを認識しながらワークショップを通して感覚を磨く。	株式会社ブライトウェイ
プロジェクトベースドラーニング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う。	株式会社ブライトウェイ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

グローバル人材として求められる人材像を分析し、カリキュラムやシラバスに反映させ、さらに即戦力となる人材の育成を図るため、「教職員研修規程」に則り、教職員の能力及び資質等の向上を目的とした研修を継続的に実施することを基本方針とする。

定期的な企業からのヒアリングや各種研修会に参加し情報収集することにより、社会の動向を常に把握し企業視点を軸とした教育サービスの提供を目指す。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 人事・研修担当者向けセミナー
連携企業等: 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
日程: 平成29年11月8日(水) 14:00~16:00
内容: TOEIC導入企業の事例紹介・TOEIC教育第一人者英語教育コンサルティング会社代表の講演会
対象: 教員2人

研修名: グローバル人材育成プログラム体験セミナー
連携企業等: アルク教育社
日程: 平成29年12月1日(金) 13:00~16:00
内容: グローバルビジョンプログラム講義・グローバル人材育成研修事例報告
対象: 教員3人

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: カウンセリング I 研修
連携企業等: 日本交流分析協会(講師: 廣田 哲成氏(准教授))
日程: 平成29年5月17日 16:00~17:30
内容: カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得
対象: 教員2人

研修名: 教育コーチング研修
連携企業等: 全国専門学校教育研究会(講師: 鈴木 建生氏(ユマニテク短期大学副学長))
日程: 平成29年8月23日~24日
内容: 効果的な言葉がけの基本・コーチングの基本姿勢と人間観、信念等ロールプレイ等のアクティブラーニング
対象: 教員1人

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 使える英語の効果的習得法
連携企業等: 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
講師: 千田 潤一先生(株アイシーシー代表取締役)
日程: 平成30年6月5日(火) 15:30~17:00
内容: TOEICの効果的学習方法の紹介、スコア別英語トレーニング法の体験
対象: 教員1人

研修名: 企業が求めるグローバル人材像と社会を見据えた大学英語教育~TOEIC Programの様々な活用方法~
連携企業等: 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
講師: 米子 哲朗氏(山九株式会社 取締役兼常務執行役員)、早瀬 博範氏(佐賀大学副学長・全学教育機構長)
日程: 平成30年9月15日(土)
内容: 特色あるグローバル人材育成の取り組みとTOEIC Programの効果的活用と活用事例の共有
対象: 教員1人

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: カウンセリング I 研修
連携企業等: 日本交流分析協会(講師: 廣田 哲成氏(准教授))
日程: 平成30年4月25日(水) 16:00~17:30
内容: カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得
対象: 教員1人

研修名: 教える技術
連携企業等: 公益法人日本生産性本部
講師: 寺沢 俊哉先生(主席経営コンサルタント)
日程: 平成30年8月21~22日
内容: ライブメソッドの紹介・気づきの実習体験・ファシリテーション実習など
対象: 教員1人

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今日のグローバルな課題を解決し学生自身の持続的な成長を実現するために、あらゆる分野に通用する世界で活躍できる人材を育成することが不可欠であるとの意見を踏まえ、語学学習環境の拡充(英語+第二外国語)、また観光サービス分野のトレンド理解を主とするグローバル人材育成を目指すインバウンド概論を導入した。更には、学習成果を測る位置付けとしている観光業界での「企業インターンシップ」においては、幅広い業界における語学の必要性を企業様へ直接ヒアリングを行うことで受け入れ先企業数の拡大を目指している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
堀部 豊和	平成23年度 トラベルビジネス科 卒業生	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	卒業生
高島 妙美	平成21年度 ホテル・リゾート科卒業生	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	自治会長
甲斐 直樹	福岡県立稲築志耕館高等学校 校長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	高校
長 加奈子	福岡大学 准教授	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	教育機関
野中 昌	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	団体
増田 義孝	航空貨物研修センター 代表	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	団体
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	団体
加藤 博志	九州B.M.C.会長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	団体
鶴田 武彦	福岡県洋菓子協会 専務理事・事務局長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	団体
錦邊 千恵子	ANA福岡空港株式会社旅客サービス部 旅客サービス3課	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
大内田 諭	ANA福岡空港株式会社グランドサービス部 ライトハンドリング2課	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
小林 俊裕	日本通運株式会社福岡支店 九州グローバルロジスティク企画 次長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
木村 弘	トップスタッフ株式会社九州支店 主任	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
金 大義	株式会社韓進インターナショナルジャパン福岡空港事業部 事業部長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
森山 光	株式会社アルク 福岡支店 支店長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
能城 めぐみ	ヒルトン福岡シーホーク 人事部 次長一人材開発担当	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
大屋 寿	株式会社ニューオータニ九州 執行役員人事総務部長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
古賀 三和子	株式会社アルカディア 人事課長	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
細溝 亮太	株式会社JTB 福岡在中 人事チーム グループリーダー	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
安藤 大介	高見株式会社 九州営業部 部長	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
山下 輝美朗	株式会社 石村萬盛堂製造本部新宮工場 工場長兼洋菓子部次長	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業
廣瀬 義幸	ペイ・バスク オーナーシェフ	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、ASOの考え方、6つの特徴
(2) 各学科等の教育	学科コース一覧、国家資格・検定、就職情報、入学案内
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動、サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費サポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計画書、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/aftc/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 海外ビジネス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Speaking Skills I A	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する	1前	60	4	△	○		○	○	○		
○			Speaking Skills I B	レベル別クラスで日常生活に必要な英会話力を養成する。前期の学習を踏まえ、英会話力の向上を目指す	1後	60	4	△	○		○	○	○		
○			English Recitation	レベル別に英語の課題文を暗記し、人前で発表するプロセスの中で、語彙、フレーズの習得、表現力の向上を目指す	1後	30	2	△	○		○	○			
○			MOS(Excel/Word)演習A	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す	1前	60	4	△	○		○		○		
○			MOS(Excel/Word)演習B	「Microsoft Office Specialist Excel」、「Microsoft Office Specialist Word」の取得を目指す。	1後	60	4	△	○		○		○		
○			英語検定対策 I A	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1前	90	6	△	○		○	○			
○			英語検定対策 I B	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	1後	90	6	△	○		○	○			
○			総合英語 I A	レベルごとに基礎英文法の習得、英語で「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の基礎力を養成する	1前	60	4	△	○		○	○			
○			総合英語 I B	前期の学習内容をもとに、さらに高等な英文法の習得、読解、聴解、英会話の実践練習を行い、総合的な英語力を養成する	1後	60	4	△	○		○	○			
	○	A	韓国語 I A	ハングル文字を学ぶことから始め、韓国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの韓国語習得を目指す	1前	30	2	△	○		○		○		
	○	B	中国語 I A	音調の学習から始め、中国語の基礎を学び、簡単な日常会話レベルの中国語習得を目指す	1前	30	2	△	○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○	A	韓国語ⅠB	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な韓国語会話の習得を目指す	1後	60	4	△	○		○			○		
	○	B	中国語ⅠB	前期の学習を発展させ、より多くの日常会話フレーズを学び、より自然な中国語会話の習得を目指す	1後	60	4	△	○		○			○		
	○	A	インバウンド概論	21世紀の国際観光産業について、訪日外国人観光客をめぐる最近の動きや外国人から見た日本の観光資源についての概要を掴み、アメリカ系ホテルビジネスや外資系航空会社の日本戦略についても学ぶ。また、外国人から見た九州観光の魅力について調査し、プレゼンテーションを行う。	1前	30	2	△	○		○			○	○	
	○	A	観光業界概論	ホテル、トラベル、航空の各業界の現状ならびに各業界にどのような業務があるのかについて学ぶ	1後	30	2	△	○		○			○	○	
	○	A	サービス接遇A	「サービス接遇3級」または「サービス接遇検定2級」の合格を目指すとともに、接客マナーについての知識を修得する	1前	30	2	○			○				○	
	○	A	サービス接遇B	「サービス接遇3級」または「サービス接遇検定2級」の合格を目指すとともに、接客マナーについての知識を修得する	1後	30	2	○			○				○	
	○	B	商業簿記ⅠA	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ(グローバルビジネスコース選択)	1前	30	2	△	○		○				○	
	○	B	商業簿記ⅠB	「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格へ向けての基礎段階として、簿記に関する基礎を学ぶ	1後	30	2	△	○		○				○	
	○	B	貿易英語A	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使われる語彙、フレーズを習得する	1前	30	2	△	○		○				○	
	○	B	貿易英語B	貿易の流れを学びながら、貿易業務で使われる語彙、フレーズを習得する	1後	30	2	△	○		○				○	
○			一般教養ⅠA	就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養 I B	一般教養 I Aに続き、就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1後	30	2	○			○		○		
○			コミュニケーション技法	人間関係において必要、且つ複雑な仕組みによってなりたっているコミュニケーションを、効果的に実施できるような技能・技術・態度を習得し、コミュニケーション検定3級取得を目指す	1前	30	2	△	○		○			○	
○			GCB I	様々な事例について話し合うことにより、「感謝と思いやり」を学ぶ	1前	15	1	△	○		○			○	
○			社会教養 I A	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1前	15	1	△	○		○			○	
○			社会教養 I B	社会教養 I Aに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1後	30	2	△	○		○			○	
○			就職対策	進路選択、就職活動、仕事観の形成講習を目的に講演、講習を通し学習する	1後	15	1	△	○		○			○	
○			Intensive English Learning Program	韓国にある英語村において、韓国の大学生とともに、集中的な英語学習プログラムに参加する	1後	40	1		○				○	○	
		○	企業インターンシップ	旅行会社、ホテル、ブライダルなど、各業界にてインターンシップを体験することで、職種を理解し、自分に足りないものに気づく	1後	40	1			○			○	○	○
○			Speaking Skills II A	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2前	60	4	△	○		○			○	○
○			Speaking Skills II B	レベル別クラスでよりスムーズな日常英会話の運用ならびに多岐にわたる場面での英会話力の養成を目指す	2後	60	4	△	○		○			○	○
○			Speech	2年間の英語学習の集大成として、各自の問題意識、関心のあるテーマについてリサーチを行った内容を英語でスピーチとして発表する	2前	60	4	△	○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Graduation Report	スピーチに関連したテーマについて、英語での論文作成を行い、まとめた内容について英語でプレゼンテーションをする。	2後	60	4	△	○		○	○			
○			MOS(PowerPoint)演習	1年次、2年次前期で学んだExcel、Wordの知識を使って、より実践的、実際のな応用演習を総合的に行う	2前	60	4	△	○		○	○	○		
○			パソコン実践スキル	1年次、2年次前期で学んだExcel、Wordの知識を使って、より実践的、実際のな応用演習を総合的に行う	2後	30	2	△	○		○	○	○		
○			英語検定対策ⅡA	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2前	90	6	△	○		○	○			
○			英語検定対策ⅡB	レベル別クラスにて「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」の準2級、2級、準1級の合格、またTOEICの高スコア取得のための対策授業を行う	2後	60	4	△	○		○	○			
	○	A	通訳入門	通訳の際必要となる高度な英語運用能力や日本語での説得力ある話法を身につける。また、話し手の要点と考えを正確かつ迅速に把握する能力を身につける	2前	30	2	△	○		○	○			
	○	B	総合英語Ⅱ	英語のビジネス文書やニュースの記事を題材として、様々なタスクを通して英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に身につける	2前	30	2	△	○		○	○			
○			General English	総合英語ⅡAよりさらに高いレベルの教材で英語の4技能の習得を目指す	2後	30	2	△	○		○	○			
○			ニュース英語	ニュースに使われる語彙やフレーズを学び、時事英語や日常会話よりも早い英語に慣れ、より広い範囲の英語への適応力の養成を目指す	2後	30	2	△	○		○	○			
○			マーケティング	企業の「売る」ための仕組みや企業のさまざまなマーケティング戦略について学ぶ	2後	30	2	△	○		○		○	○	
○			プロジェクトベースドラッシング	ホテルや航空会社における実務例をベースに、現在のトレンドを踏まえてグループワークでプロジェクトを立ち上げ、内容のプレゼンテーションを行う	2後	15	1	△	○		○	○	○	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○	A	韓国語ⅡA	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2前	30	2	△	○		○			○	
	○	B	中国語ⅡA	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2前	30	2	△	○		○			○	
	○	A	韓国語ⅡB	韓国語ⅠA,Bで習得した語彙や文法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2後	30	2	△	○		○			○	
	○	B	中国語ⅡB	中国語ⅠA,Bで習得した語彙や分法知識をもとに、会話練習を積むことでさらに運用力を高める	2後	30	2	△	○		○			○	
	○	A	観光業界実務	ホテル、トラベル、航空の各業界の業務について実践を交え、より具体的に学ぶ	2前	30	2	△	○		○			○	○
	○	B	商業簿記Ⅱ	商業簿記Ⅰで学習したことを元に、「日本商工会議所主催簿記能力検定」の3級合格を目指す	2前	30	2	△	○		○			○	
○			一般教養ⅡA	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの演習をおこなう	2前	30	2	○			○			○	
○			一般教養ⅡB	時事教養や基本的教養を基に、SPI試験、適性試験などの演習を行う	2後	15	1	○			○			○	
○			ビジネス実務A	社会人として必要なビジネス上のマナーを学ぶ	2前	30	2	△	○		○			○	
○			ビジネス実務B	名刺の渡し方やお茶出しなどの、社会人として求められるマナーを実践的に身に付ける	2後	30	2	△	○		○			○	
○			GCBⅡ	著名人や偉人の人生や教訓を通して、「志」を学ぶ	2前	15	1	△	○		○			○	
○			社会教養ⅡA	会社訪問や面接試験を受ける際の事前準備、訪問・面接試験後の振り返りと反省をし、就職試験に向けての準備を行う	2前	45	3	△	○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会教養ⅡB	比較的身近な話題に関するインタラクティブディベートの活動を通して、批判的思考を身につけ、発信力や傾聴の姿勢を育てる。裁判所見学、博物館見学などのアクティブラーニングを通して、社会文化的な教養を身につける	2後	30	2	△	○		○		○		
合計			48科目		1885単位時間		(124 単位)								

※選択必修科目については、AかBのどちらかを選択する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。